

ふるさと 通信員だより

vol.216

このコーナーでは、ふるさと通信員が取材した身近な地域の話題を紹介します。なお、町では通信員を募集しています（活動はボランティアでお願いしています）。広報活動に興味のある人は、役場広報広聴課広報係（内線216）にご連絡ください。



拾わなくてもいい時代はいつ？

老人クラブ東部福寿会（今井武会長、会員39人）が、毎年恒例の社会奉仕活動を行いました。北は新通北1丁目から、南は大通12丁目までの会員17人それぞれが、自宅からゴミを拾いながら雄飛が丘会館前に集合するシステム。集まったゴミは、ペットボトル、空き缶、空き瓶やタバコの吸い殻にビニール、大きな物では蓄音機や鉄板など45リットル袋32袋にもなりました。狭子美智子さん（77）は「ペットボトルや空き缶が多いね」と熱心に仕分けしていました。拾わなくてもいい時代は、いつになったら来るのでしょうか。



もの作りを通して

共栄中学校（中井哲校長・生徒数252人）の加藤道さん（中2）はもの作りが好きです。特に好きなのは消しゴムはんこを作ることです。4年間で300個以上作りました。加藤さんは消しゴムはんこを教えてくれた先生のデザインキャラクターを元にオリジナルのアレンジを加えて作りま

加藤さんは自分の作品を出品し、販売したことがあります。その時に来てくれた人たちが加藤さんの作品を購入してくれたことがとても嬉しかったそうです。加藤さんは「難しいデザインに挑戦したり、均一に彫れると楽しい。もの作りを通して色んな人に会えることがうれしい。将来は自分のお店を持ちたい」と話してくれました。

